

県重宝（建造物）の指定について

- | | | |
|---|--------|--|
| 1 | 文化財の種別 | 県重宝（建造物） |
| 2 | 名称及び員数 | だいじじ ぬかつか ほんどう さんもん きょうぞう
大慈寺（糠塚）本堂、山門、経蔵 3棟 |
| 3 | 所有者 | 宗教法人大慈寺 |
| 4 | 所在地 | 八戸市長者1丁目6-59 |
| 5 | 建築年代 | 江戸後期 本堂 文化2年（1805）
山門 天保2年（1831）
経蔵 安政5年（1858） |
| 6 | 構造及び形式 | |
| | ○本堂 | <p>(1) 建築様式 木造平屋建て</p> <p>(2) 屋根形式 鉄板葺き入母屋屋根（建立当初は茅葺き）</p> <p>(3) 規 模 延床面積 252.715㎡（76.58坪）</p> <p>(4) 意 匠 ないじんげじん 内陣外陣の柱頭及び中備に和様の出三斗の組物及び折上げ格天井の特長をもつ。当初の茅葺寄棟屋根を活かした唐破風向拝及千鳥破風付入母屋屋根に改修された。</p> |
| | ○山門 | <p>(1) 建築形式 三間一戸 木造二層楼門</p> <p>(2) 屋根形式 鉄板葺き入母屋屋根（建立当初は茅葺き）</p> <p>(3) 規 模 延床面積 45.54㎡（13.8坪）</p> <p>(4) 意 匠 ことじかとう 琴柱花頭の形式を取る通路両脇に仁王像を安置し、上層中央に棧唐戸、両脇に花頭窓を設え、軒に出三斗と臺股を組んでいる。下層にある中備えの蓑束も特長である。</p> |
| | ○経蔵 | <p>(1) 建築形式 もこし 裳階付木造平屋造</p> <p>(2) 屋根形式 さんがわら ほうぎょう 棧瓦葺き方形屋根（建立当初は柿葺き）</p> <p>(3) 規 模 延床面積 91.2㎡（25坪）</p> <p>(4) 意 匠 てんりんぞう かこう さやどう 内部の大型転輪蔵を覆う架構による鞘堂で、もこし さんがわらぶきほうぎょう 裳腰付棧瓦葺方形屋根の経蔵正面中央に棧唐戸を吊り、両脇に花頭窓を設えた意匠である。</p> |

7 由緒及び沿革

糠塚大慈寺は、松館大慈寺の八戸城下の宿寺として延宝年間(1673-1681)に創立された曹洞宗の寺で、天保元年(1830)頃に松館大慈寺の宿寺から本寺に格上げされた。

大慈寺伽藍の建立年代に関わる古記録は、新位牌堂・坐禅堂落慶 先住 休廣忌法要記念誌の「八戸糠塚 福聚山 大慈寺 寺誌」にまとめられており、現行の伽藍は文化2年(1805)に本堂を再建したことに始まる。天保2年(1831)に山門、安政5年(1858)に経蔵が建立された。

8 現況

本堂は、昭和30年に向拝及び屋根廻りを大改修したが、外観は建築当初の軒回りや窓の特長を継承しており、内部も創建時の構法的特長を良く残している。

山門は、度重なる大地震のために^{かこう}架構に若干の歪みを感じられるが、柱・梁・桁や^{かしらぬき}頭貫などの主要部材特に傷みは見られず、^{こうらん}高欄回りの部材や軒回り、^{かとうまど}花頭窓部材に雨風による腐朽が生じている程度で、保存状態は良好である。

経蔵は、^{こけらぶき}柿葺から^{さんがわら}棧瓦に葺き替えただけでほぼ当初の姿を継承し、建材にも目立つ腐朽などは見られない。軽い^{こけらぶき}柿葺から重い^{さんがわら}棧瓦に葺き替えたために小屋組に^{てんりんぞう}撓みが生じ、^{てんりんぞう}転輪蔵に雨漏りの濡れが生じているが、保存状態は良好である。

9 指定事由

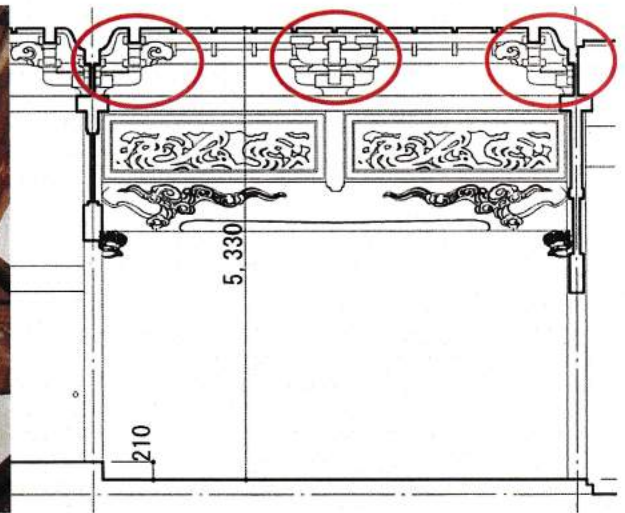
本堂は、文化2年(1805)再建の棟札が残り建築年代が明確で、本堂内部に和様の^で出^{みつど}三斗を^{なかぞなえ}円柱及び中備に組んだ意匠は県内にはなく、県重宝として指定に値する。

山門は、天保2年(1831)建立の棟札が残り建築年代及び棟梁が明確で、下層中央の^{ことじかとう}琴柱花頭の形式を取る通路は、県内だけでなく全国にも例の無い特長であり、県重宝として指定に値する。

経蔵は、安政5年(1858)建立の棟札により建立の発起から竣工までの経過が明確で、東北地方でも極めて少ない大型経蔵であり、県重宝として指定に値する。



大慈寺（糠塚）本堂



本堂内部の和様の出三斗

(写真提供：月舘敏栄氏)



中央に棧唐戸、両脇に花頭窓

大慈寺（糠塚）山門

蓑束



琴柱花頭の形式を取る山門

(写真提供：月館敏栄氏)



大慈寺（糠塚）経蔵



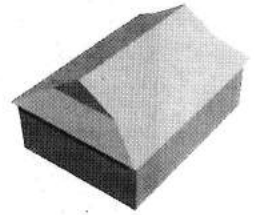
経蔵内部の大転輪蔵

(写真提供：月館敏栄氏)

【参考】

いりもや
○入母屋屋根

上部を切妻造りの様式にし、その四方に庇屋根を付けた形式。



ないじん げじん
○内陣と外陣

本尊を安置する最も奥の空間を内陣、その外側を外陣。

なかぞなえ
○中備え

柱と柱の間で支える構造部材をいう。

ごうてんじょう
○折上げ格天井

正方形の格子状の板を組み、天井の中央部が回り縁より高くなった天井。

よせむね
○寄棟屋根

正方形の格子状の板を組み、天井の中央部が回り縁より高くなった天井。

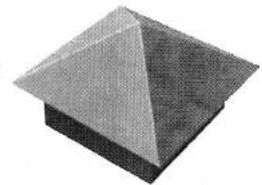


さんかわら
○棧瓦

断面が波形で一隅又は二隅に切れ込みが入った瓦。重量は本瓦の2分の1。

ほうぎょうやね
○方形屋根

平面が正方形又は八角形の建物のみに見られる四面又は八面の屋根面が一つの頂点に集まるもの。



さやどう
○鞘堂

建造物を保護するために、その外側を覆う建物。

もこし
○裳階

仏堂等において本来の屋根の下に一重屋根をかけるかたちで付ける庇状の建造物

県文化財の指定件数

種別	現在の件数 H30.8.2 現在	今回の指定	指定後の件数
県重宝	148	<u>1</u>	<u>149</u>
建造物	43	<u>1</u>	<u>44</u>
-----	-----	-----	-----
絵画	6		6
-----	-----	-----	-----
彫刻	29		29
-----	-----	-----	-----
工芸	29		29
-----	-----	-----	-----
書跡	2		2
-----	-----	-----	-----
考古資料	28		28
-----	-----	-----	-----
歴史資料	11		11
県技芸	2		2
民俗文化財	67		67
県有形民俗文化財	13		13
-----	-----	-----	-----
県無形民俗文化財	54		54
記念物	63		63
県史跡	20		20
-----	-----	-----	-----
県天然記念物	40		40
-----	-----	-----	-----
県名勝	3		3
合 計	280	<u>1</u>	<u>281</u>